妖蛇の森
作・画 嶋田勇

妖蛇の森

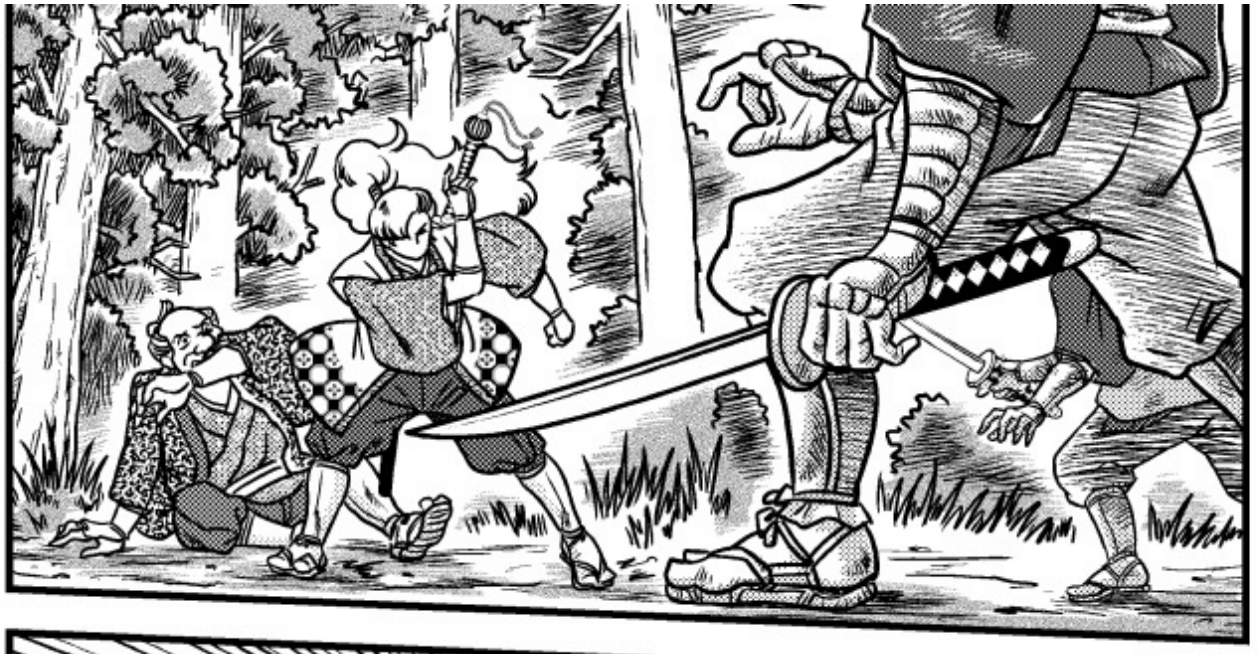
作・画　嶋田勇

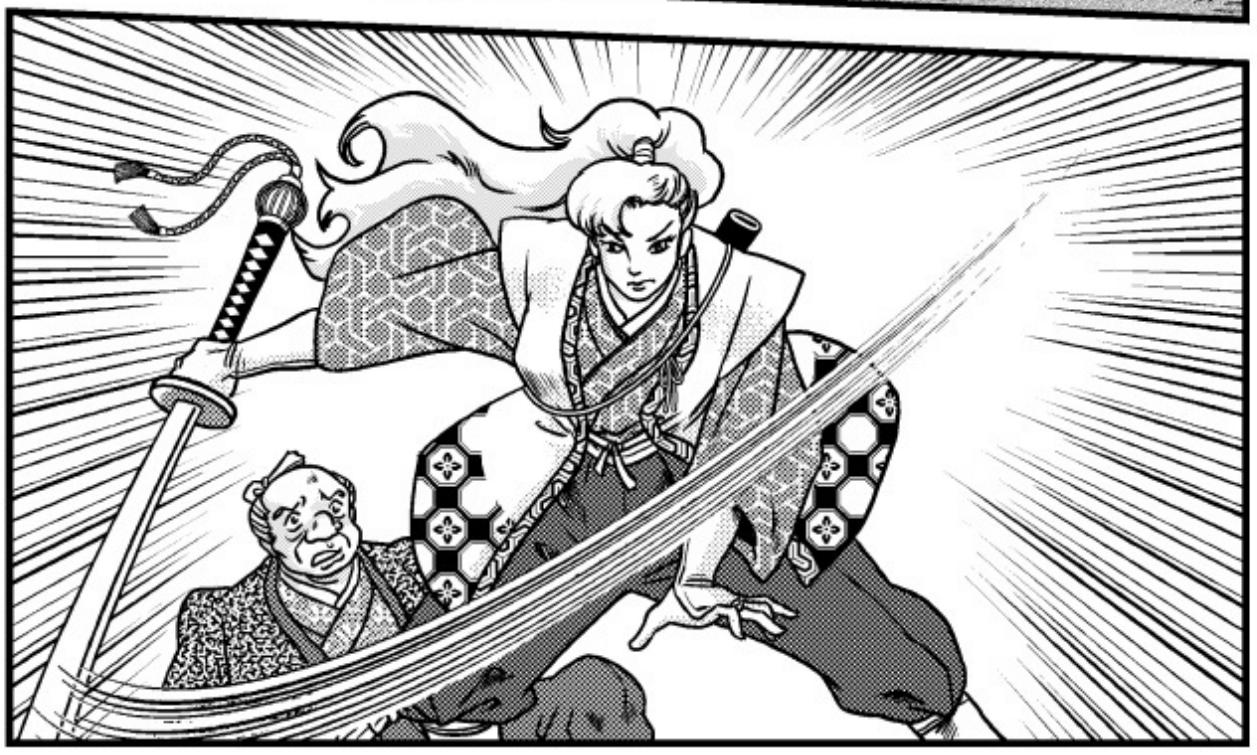
レロコ
破邪魔丸、風宝の鈴が鳴り出したわよ！
風姫様、ふところにお入りください！

森の妖気に斬魔刀が反応しているのです。
邪悪な魔物の気配が漂ってきます！

エッ？どこから…
しっ！
…た、
助けて…

ヒィ…
ハァ…
ヒィ…
待てや、このジジイ！
ヒィイィー！
た…助け…！
グフ
ヒヒッ
ゲヘッ
誰か助けてくれ！
やめろ、山賊ども！



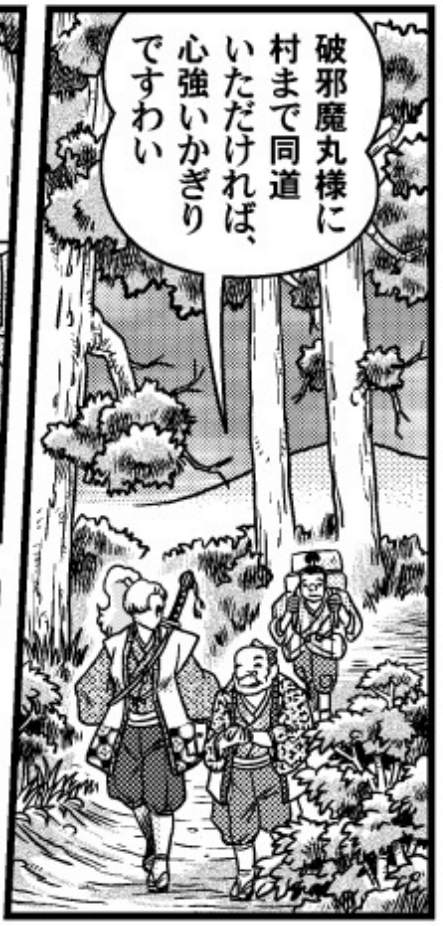


ダァ〜？
きさまァ！
じゃまするか若造め！
まとめてブチ殺すぞオ！
…ン？
ちょい待てや。
こいつ、うまそうなおんなの匂いだぞ。
引き裂いてたっぷり楽しんで、その後で食っちまおうぜ。

ひぇ！
化け物
ガッ
ガッガッ
スーハー
ギャハァ！
グヒエッ！

ひぇあぁ！
もう大丈夫だ
けがはないか？
お救いくださりありがとうございます。
都からの帰り道、まさか化け物に襲われるとは…
ごらん！
化け物ではないよこいつらはただの山賊だ
この森には人間を狂わす妖気に満ちていた
こいつらはそれに取りつかれ利用されていたんだ
この刀「風宝」は肉を斬る刀ではない
人に取りつく邪悪な気を追い払う斬魔刀なのだ

ガサガサ
ギク
ま、また化け物？
えっ？
だんな様、おらです
へ…、平助！
怖ろしゅうて藪ん中に隠れておりました
バカもん！あるじを見捨てて逃げる奴があるか！
わしはこの先の村の名主で善兵衛
こいつは下働きの平助と申します
あなた様は？
おれの名は破邪魔丸
悪鬼、化け物退治専門の妖魔狩り師だ


破邪魔丸様に
村まで同道
いただければ、
心強いかぎり
ですわい

たいそうな
荷物だが
都でなにか
商売でも？
いえいえ、
わしには
年頃の娘が
ふたり
おりまして

着物やら
かんざしやら、
みやげを
買いすぎて
都からの
帰り道は、
つい荷物が
増えちまう
のですわい

そのため
荷物運び役に
こいつを連れて
来とるんじゃ
アッ

なん
じゃと？

霧ケ森から
誰か下りて
来ますよ

あ、
あれは…
カエデ！

カエデ、
どうしたのじゃ
大丈夫か？

善兵衛殿
の娘か？
ハイ、
妹のカエデ
お嬢さま
です

キャアアー！
イヤァ
アアー！

ムッ、
いかん！

オイ、
しっかり
しろ！

カエデさんの具合はいかがです？
はい…
ひどく興奮しておりましたが、怪我はないようです
ようやく落ち着いて今は眠っております
いったい森で何があったのか話しましたか？
…はい、どうにか聞き出したところ、
ひとつ違いの姉のアヤメが…
霧ケ森の大蛇に飲み込まれたと言うのです！

今朝早く
カエデは
姉のアヤメと
ふたりで
山菜取りに
出かけた
カエデ、
西の沢へ
行って
みようか
姉さん
待って
ちょうだい
…ところが、
つい夢中になって
山菜を摘むうち
いつのまにか
霧がたちこめて…
…ここは
霧ケ森だわ
いつのまにか
ずっと北に
入り込んで
しまったのよ
姉さん
怖いわ！
はやく戻り
ましょ！
アッ！
なにかいる
えっ？

お願いです
なんとしても
アヤメの
あだ討ちを
したいのです
破邪魔丸様
力を貸して
くだされ！
謝礼は
いくらでも
お支払い
します！
霧ヶ森の
大蛇を
退治して
くだされ！

ダメじゃ、おとう やめて！
カエデ！
大蛇退治なんて怖ろしい考えはいかんよ！
アヤメ姉さんをたったひと口で丸呑みにしたんよそんな怖ろしい化け物、どんな剣術の達人だって太刀打ちできるもんか！
…たとえ、大蛇を倒せたとしたって、霧ヶ森の主を殺めたらどんな災いが村に及ぶか知れんよ！
しかし、おまえの姉のかたきだぞ！
今は村の誰も霧ヶ森に足を踏み入れてはダメだよ！
犠牲者がもっと出るかもしらんよ！

霧ヶ森の大蛇退治、おれが引き受けよう
あなたは…？
おれは旅の妖魔狩り師、破邪魔丸
よそ者のおれが大蛇退治するなら村に呪いがかかる心配もないだろ？
ダメ！ぜったいダメよ！
ありがたい！引き受けてくれますか！
ただし、ひとつ条件がある！
ぜひ、アヤメさんの着物を貸してもらいたい

アラ、
びっくり！
身分の低い名主の娘にしては、上等な着物ばかりね！
善兵衛とやら娘かわいさにたいそう金をかけていたらしいわ
この振り袖が似合うかしら？こっちの柄も捨てがたい
風姫さま、どれでも良いでしょう？さっさと決めてください！
女装するのは敵を油断させる変装なんですから…
ダメよ！ひさしぶりに女の姿に戻れるのに！
おまえの体はもともと私の体なんですから、大切に使わねば許しません！
ハイハイ、承知しております風姫さま！

まちがいないわ
あいつ女よ！
なんのつもりで
男の格好しとるか
知らんけれど、
ほんとは女なんじゃ
お待たせした
善兵衛殿…
なんと、
こりゃ
驚きだ！
こんなに
お美しい方
とは…
蛇精の魔物は
元来淫を好むと
伝えられています
この姿で大蛇を油断
させる策略です
平助、
霧ヶ森への
道案内
頼んだぞ
へーイ、
だんな様

はやり病で
おっ母を亡くして
身寄りのないワシは
庄屋様を頼って…、
以来ずっと
あの屋敷で
下働きをして
おります
平助さん、
あんたいつから
善兵衛殿の屋敷で
働いてるんだ？
へい、
十二の時から
でございます
待って！
破邪魔丸
さま、
待って！
ハァ
ハァ
よかった！
やっと
追いついたわ
カエデ
お嬢さん！
カエデさん、
なぜついて
来たんだ？

あたしが破邪魔丸さまを森までご案内しますわ
平助、あんたはお帰り！
そんな、だんな様に叱られます
…いや、大蛇の居所はカエデさんのほうが詳しいでしょう
平助さんはここで待っていてください
サァ、参りましょう！
霧ヶ森はこの先ですわ！
どういうつもりかしらあの女、絶対怪しいわよ
ウム、わかってる
霧が出てきたな…
もうすぐだわ大蛇が現れた場所は！

カエデさん
ここから先は
おれひとりで…
見て！
人影が！
アッ！
…ようこそ
霧ヶ森へ
わが名は
オロチ丸
いとしい女よ
こちらへ参れ
カエデさん
逃げろ！

カッ
風姫さま！
見ては
ダメです！
あ、あれは
催眠眼だ
蛇精の魔物は
淫を好み、魔眼で
人を誘惑すると
聞く…
奴は眼光で
相手をとりこ
にするんだ！
フッフフ…
サァ、
美しい女よ
オロチ丸が
かわいがって
やるぞ…
なに？

あいにく
だったな、
化け物！
おれには
キサマの
眼力など
効かないぜ
体は女でも、
おれの心は
男なんでね！
ホホウ…
ヤアァ！

こいつ、斬魔刀の威力が通じないのか？
風宝の鈴も鳴らないよ
妖気の源は、こいつじゃないということか？
破邪魔丸！
尻尾に気をつけて
ウァ！
しまった！風宝が…
あっ！

カエデさん、
なぜ戻って
来たんだ？
大蛇が来る
カエデさん、
刀を返して！

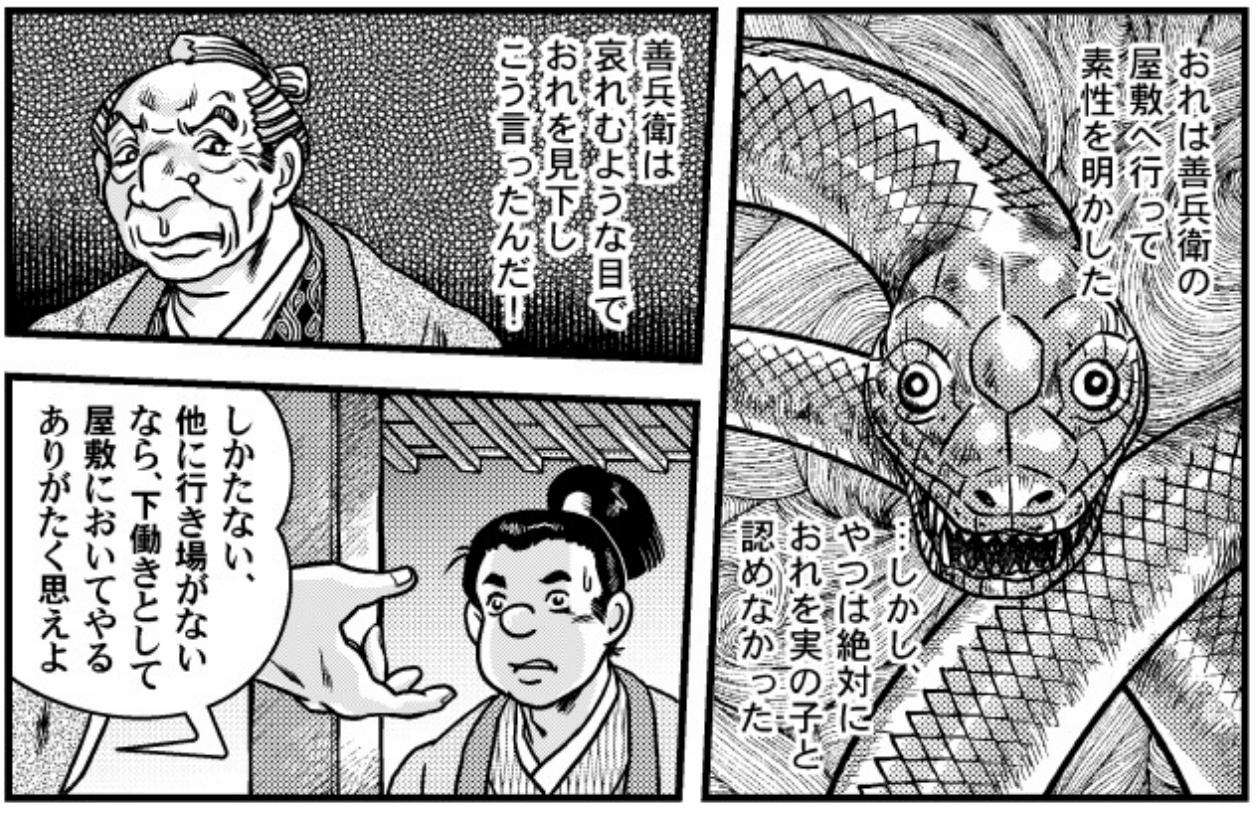
破邪魔丸！
しっかりして
フッフッフッ
カエデ、よく
やった！
オロチ丸
あの女も、私
殺したわ
アヤメ姉さんが
あなたと寄り添うのを
見ると、憎くて憎くて
たまらなかったわ
だから、殺したのよ
あなたのためなら
人殺しをいくら重ね
たってかまわない！
愛してるわ
私、あなたに
近づく女は
誰も許さない
カエデ
だったんだ！
アヤメは
大蛇に
呑み込まれて
死んだんじゃ
ないわ！
魔物に恋した
カエデが
嫉妬に狂って
自分の姉を
殺したんだ！

う〜、背中痛てー
破邪魔丸！
い、生きていたの？
風宝は人を斬る刀じゃない！
心にとりついた邪気を斬り払う斬魔刀なんだ！
イヤァ！
きゃあぁあぁーっ！

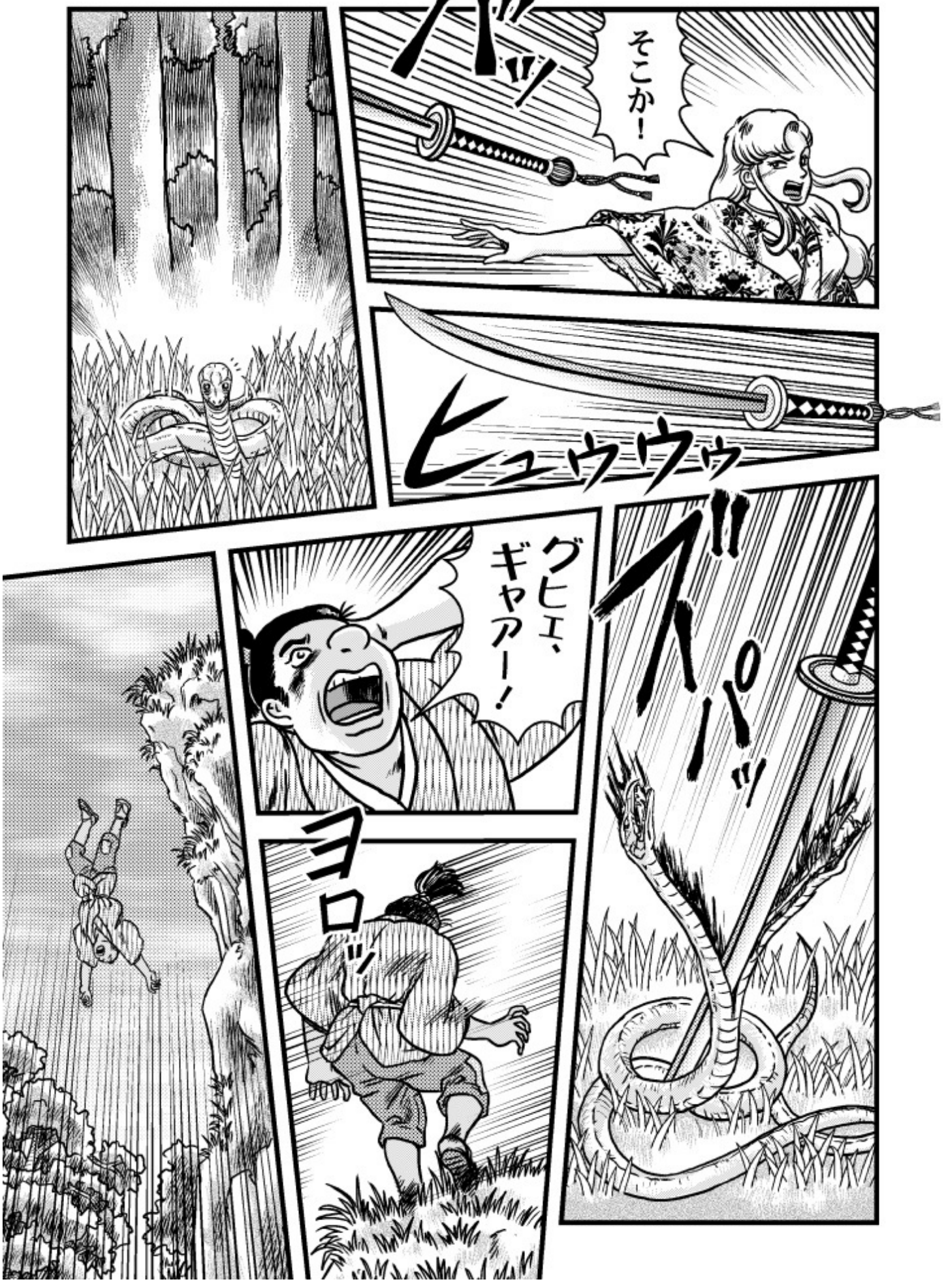
破邪魔丸
来て！
カエデ…
ヒュー
ホラ、
がけの下を
見て！
姉の
アヤメの
死体だ！
お嬢さま、
カエデ
お嬢さま！
平助さん
…まさか
こんなことに
なろうとは…
…けれど、
因果の報いかも
しれません
姉殺しの
罪を犯した
カエデさまの
自業自得です
から…

スッ
なぜ
知っている？
たった今、
ここへ来たはずの
おまえが…
なぜ、
カエデの姉殺しを
知ってるんだ！
リリリ
風宝の鈴が
鳴り出した！
フッフフ…
ばれちまったか
これは復讐
なのさ！
オレは幼い頃、
父親を知らずに
育った…
おっ母さんと
ふたり、貧しい
暮らしのなか
父無し子と
さげすまれて
育ったんだ

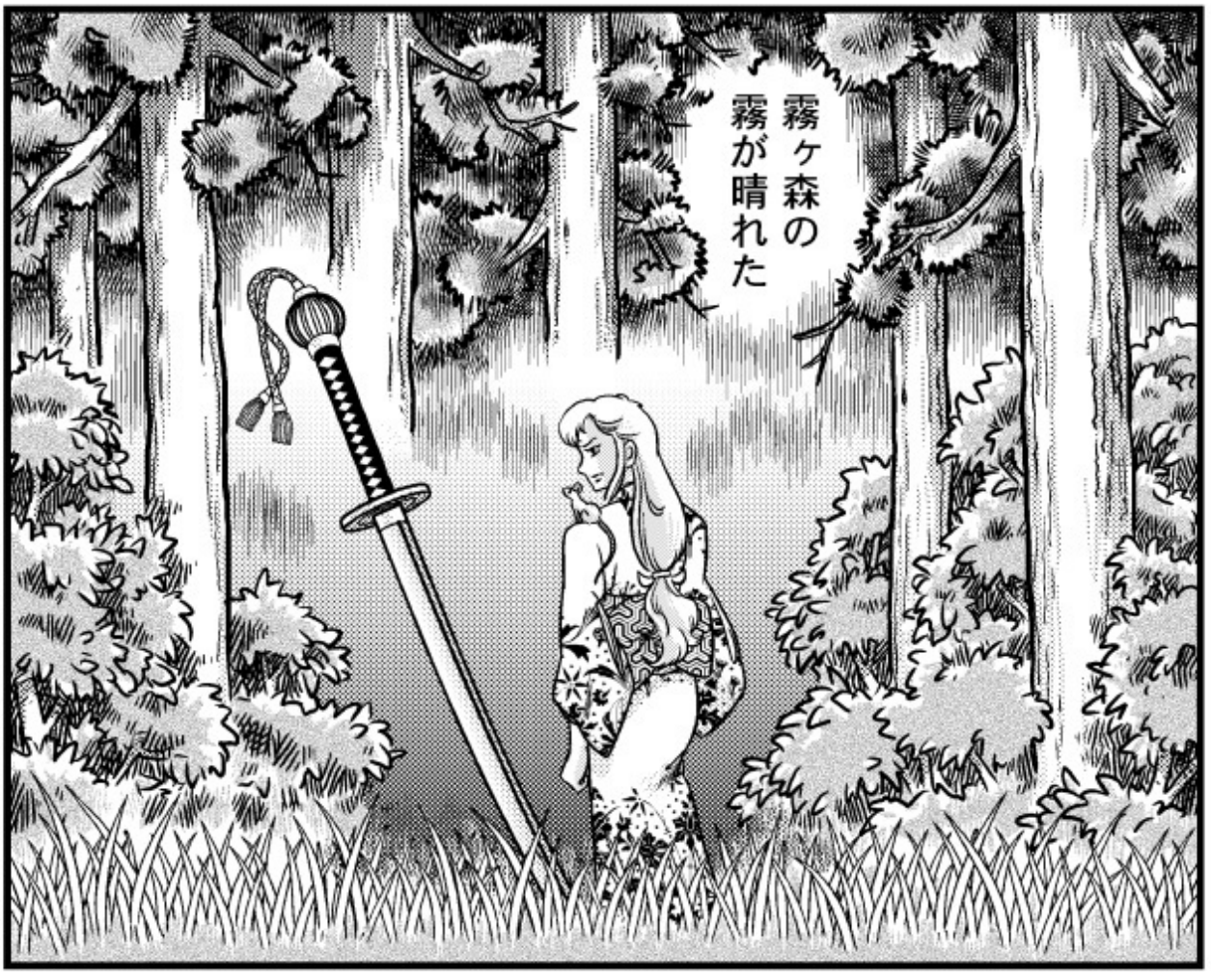
おっかさんは
病で死ぬ間際
こう言った…
平助…、おまえの
おとっつぁんは
名主の善兵衛さま
なんだよ
えっ？
おっかさんは
善兵衛の屋敷に奉公
してる時に、おれを
身ごもった…
善兵衛に
手込めにされて、
それを知った
やつの妻が怒り、
母は身重のまま
追い出された！


おれは善兵衛の
屋敷へ行って
素性を明かした
…しかし、
やつは絶対に
おれを実の子と
認めなかった
善兵衛は
哀れむような目で
おれを見下し
こう言ったんだ！
しかたない、
他に行き場がない
なら、下働きとして
屋敷においてやる
ありがたく思えよ

おっかさんの恨み
おれの恨み…
善兵衛への恨みを
晴らさずに済ますものか！
善兵衛だけじゃない
なんの苦労もなく
ただ幸せに、贅沢に
暮らしている娘どもも
アヤメとカエデも
許せないのさ！
クッ、奴は
邪念と憎悪の
塊りだ！
あの平助が
大蛇の正体
なの？
…いや、ほかに
手を貸している
モノがどこかに
いるはずだ！
この森に
巣食う魔性
のモノ…
平助の心を
そそのかした
魔性の本体が
どこかに…
風宝よ
教えてくれ！
リーン
リーン
リーン


そこか！
ヒュウウウ
グヒエ、ギャアー！
ヨロッ

妖魔の本性は
小指の太さほどの
白蛇だった


霧ヶ森の
霧が晴れた

奥付

妖蛇の森

http://p.booklog.jp/book/57518

著者 : isa6si
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/isa6si/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/57518

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/57518

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ